



※ イメージ写真です



海会寺 所在地：〒590-0965
 大阪府堺市堺区南旅籠町東3-1-2
 (車で南宗寺 P から石畳を左手へ
 30mで海会寺入り口です)

◆ 電車でお越しの方 ◆

阪堺電気軌道 上町線 又は 阪堺線 御陵前駅 下車。 徒歩 約7分
 南海線 堺駅 又は 南海高野線 堺東駅 下車。 タクシー 約10分



鎌倉時代のおわり元弘二年(1332年)に太政大臣であった洞院公賢が大壇越となって海会寺臨濟宗を創建し開山は乾峰土曇(のちに後光厳天皇より広智国師と勅諡された)室町時代になると五山十刹に列せられ室町幕府の官寺として栄えたが、ことに時の住職季弘大和尙の『蔗軒日録』から室町中期頃における往時の海会寺の活気ある状況の一端がうかがえる。
 天正十三年(1585年) 豊臣秀吉が紀州根来寺を攻めたあと根来寺の大伝法院の建物を秀吉の尽力にて海会寺として移築再興。そのときの伽藍は南北33間、東西48間の大寺地を保っていたという。大阪夏の陣(1615年)でこれを焼失したため開口神社付近から現在地に再々健された。山門をくぐると正面に門廊が、そして左側には本堂と庫裏があり本堂と庫裏が一棟の建物というのは江戸時代の初めの寺院建築としては大変珍しく貴重である。本尊は阿弥陀如来立像で南北朝時代の製作である。
 また『牡丹花詩集』(文和五年 1356年)という乾峰土曇の直筆の書跡がのこされている。それは乾峰はじめ33人の禅僧が牡丹の題で創った漢詩を集めたもので我が国の書道史、文学史において貴重な作品で市の指定有形文化財になっている。

宿松山 海会寺 由来